

皆此筆法にて畫べし。木の枝。葉。花等には風に揺らるゝ場合の外はかく急速に筆を用ゆるの要なきなり。白を用ゆる場合は。光を烈しく現はす時か。若くは畫を強く畫かんとする時にあり。例へば青空若くば曇れる空に黄色の葉を畫かんとする時には。先づ樹木を白のみにて畫き。乾いてから黄色を其上に掛ければ少しも色の透明を失ふことなく。白を用ゆる上に於て之れ最良の方法なりとす。白を用ゆるも變色の憂なし。併し一般初學者の爲めには白を用ゐず凡て透明色のみにて畫くを可とす。之は色が濁ることなく又た重くならざるが故なり。(終)

### 水彩畫の繪具 (その二)

陶器入の練製も硬くなる恐れがある、これも大形と小形とあるから、多く用ゐぬものは小形のを求めた  
らよい。  
乾製繪具は、種類によつて其儘繪具箱へ入れて置いて、筆の先で充分溶けるのもあるが、中には硬くして始  
末にゆけぬのもある、尤も期節にもよるので、春夏の候、空氣に濕氣の多い時分には大抵軟らかになつて  
ゐる。

乾製繪具を練製と同じように軟らかにするには、茶碗か盃の中へ入れ、熱き湯をヒタ／＼に入れて半日  
程置くと、心まで軟らかになる、その時湯を捨て、グリスリンを少し入れ練つて置き、入用の時繪具箱な  
りパレットへなり少しづつ出すのである、このグリセリンを入れる量が一寸加減もので、總じて透明質  
の繪具、殊にクリムソクレキやフーカスグリーンの如きは流れ出す憂があるから、ほんの少し入れる、  
コバルトやエロイオークルのやうな色は澤山グリセリンを入れても差支ない。

繪具の良否は製造會社によつて定むることも出来るが、變色する繪具は其價の高下に拘はらず如何と  
もすることが出来ぬ、廉價の繪具で不變色なものもあり、高價にしてやはり廉價のものと同様に變色する  
ものもある。

多くの會社の製造される繪具には、普通美術家用と學生用とある、時として學生用の、安物計り作る家も  
あり、又美術家用ばかり造る家もある。

日本に輸入されてゐるものは、佛國製ではブランシ會社製の大小チューブ、陶器入、ケーキ、並びに繪具箱  
で、次には英國のニュートン製が盛んに來てゐる、關西ではロンドンのローニー會社の分で、學生用チュ  
ーブが多く、近頃は森親子會社で、同じくロンドンのラファエル會社の美術家用チューブを取寄せた。  
近くに文房堂及び大阪の吉村で、ロンドンのニューマン會社の美術家用を取よせることになつてゐる。